

岩手県金融経済概況（平成 26 年 11 月）

1. 概 況

県内経済は、消費税率引き上げの影響による反動がみられるものの、基調的には緩やかな回復を続けている。

最終需要動向をみると、個人消費は、総じて底堅く推移している。公共投資は、高水準を続けている。設備投資は、増加している。住宅投資は、前年割れが続いている。

生産は、下げ止まりに向けた動きもみられる。

雇用・所得環境は、改善している。

2. 最終需要

(1) 個人消費

個人消費は、自動車販売（新車登録・届出台数ベース）については、駆け込み需要の反動などから前年割れとなっているが、小売販売（百貨店売上高、スーパー売上高）は、底堅く推移している。

—— 新車登録・届出台数（11 月）は、駆け込み需要の反動などから、普通乗用車、小型乗用車で大幅前年割れとなった。

<新車登録・届出台数（登録車+軽） 前年比（%）（資料：東北運輸局）>

	普通乗用車	小型乗用車	軽四輪	その他共計
平成 26 年 1~3 月	+ 35.8	+ 2.6	+ 35.3	+ 21.0
4~6 月	△10.7	△ 3.7	+ 5.2	△ 3.1
7~9 月	+ 3.3	△ 2.4	△ 8.8	△ 4.0
平成 26 年 7 月	△ 9.2	+ 0.2	△ 5.4	△ 5.9
8 月	+ 7.9	+ 5.5	△25.8	△11.0
9 月	+ 12.6	△ 9.8	+ 0.7	+ 2.4
10 月	△ 7.8	△ 20.9	+ 0.5	△10.6
11 月	△18.0	△ 20.7	△ 0.7	△10.5

—— 百貨店売上高（11月）は、天候要因（気温が前年対比で高め）から冬物衣料品が不冴えであったことを主因に、前年割れとなった（前年比△2.6%）。

＜百貨店売上高 前年比（%）（資料：日本銀行盛岡事務所）＞

	衣料品	飲・食料品	雑貨	その他共計
平成26年 1～3月	+ 2.1	+ 1.3	+ 0.3	+ 2.6
4～6月	△ 9.7	△ 4.0	△12.5	△ 7.9
7～9月	△ 4.4	△ 1.0	+ 1.1	△ 1.9
平成26年 7月	△ 6.5	△ 1.9	+ 0.6	△ 4.1
8月	△ 4.9	0.0	+ 0.3	△ 1.2
9月	△ 1.5	△ 1.0	+ 2.3	△ 0.2
10月	△ 0.9	+ 6.7	△ 0.4	+ 0.2
11月	△ 5.6	△ 3.6	+ 3.6	△ 2.6

—— スーパー売上高は、増加基調にある（スーパー売上高 全店舗ベース前年比（%）＜資料：経済産業省＞ 平成26年7月+2.3% →8月+4.0% →9月+0.4% →10月+3.0% →11月(p)+5.7%）。

(2) 建設投資（公共投資、設備投資、住宅投資）

公共投資は、震災復旧復興工事を主体に、高水準を続けている。

—— 平成26年11月の公共工事請負金額は、僅かながら前年割れとなった（前年比△0.7%）が、震災前5年間（平成18年から22年）平均対比では3.3倍となっており、高水準の受注環境が持続している。

民間設備投資（平成26年度計画；短観ベース）は、製造業、非製造業ともに、新製品対応投資、省力化投資などに前向きな先が多くみられていることから、前年を上回る計画となっている。

住宅投資(新設住宅着工戸数)は、均してみると前年割れが続いている。

—— 平成26年10～11月の新設住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は、駆け込み需要の反動を主因に前年割れが続いている(平成26年11月まで8ヵ月連続の前年割れ)。貸家は、10月に災害公営住宅の着工増から5ヵ月振りに前年比プラスとなったあと、11月は、再びマイナスに転じている。

新設住宅着工戸数 前年比(%) (資料:国土交通省)

		持家	貸家	分譲	その他共計
平成26年	1～3月	+18.8	+15.2	+87.3	+27.8
	4～6月	△12.2	+46.4	+43.6	+9.1
	7～9月	△14.2	△25.7	+25.8	△17.1
平成26年	7月	△11.7	△39.4	△24.1	△24.0
	8月	△10.0	△20.1	+95.0	△12.8
	9月	△20.3	△18.4	+26.5	△15.3
	10月	△15.1	+38.5	△30.8	+11.5
	11月	△30.7	△26.0	+3.1	△27.5

こうした状況下、県内官民建設工事全体の出来高(建設総合統計)は、高水準の前年を上回る増加を継続している(平成26年10月前年比+35.0%;平成24年2月以来33ヵ月連続で前年比プラス)。

3. 生産動向

生産(鉱工業生産)については、下げ止まりに向けた動きもみられる。

—— 鉱工業生産指数(季節調整済計数)をみると、平成26年8月に4ヵ月振りに前月比マイナスとなったあと、9月、10月は、2ヵ月連続で前月対比増加した(鉱工業生産指数 季調済前月比(%)<資料:岩手県>平成26年7月+0.3%→8月△4.1%→9月+2.6%→10月(p)+1.0%)。

—— 足許の鉱工業生産指数(同)を品目別にみると、電子部品・デバイス、輸送用機械などで増加している。

4. 雇用・所得動向

雇用・所得環境は、改善している。

有効求人倍率(季節調整値)は、19ヵ月連続で1.00倍以上を記録している(平成26年11月1.12倍)。

雇用保険被保険者数（民間企業中心の全数調査）は、6ヵ月連続で直近ピークを更新している（平成26年11月358,967人）。

名目賃金指数は、前年比プラス基調を維持している。

—— 平成26年10月の名目賃金指数は、前年比+2.4%増加した。

雇用者所得（県内合計値）は、増加基調を辿っている。

—— 平成26年10月の雇用者所得（県内合計値）は、前年比+3.7%増加した。

5. 企業倒産

企業倒産（11月）は、7件、5.2億円となり、件数で前年を上回った（金額では、前年を下回った）。

6. 金融面の動向

県内民間金融機関の預金、貸出は、前年を上回って推移している。貸出約定平均金利は、低下地合いを辿っている。

以 上

本件に関する問い合わせ先：

日本銀行盛岡事務所 TEL：019-624-3622（代） <http://www3.boj.or.jp/morioka/>